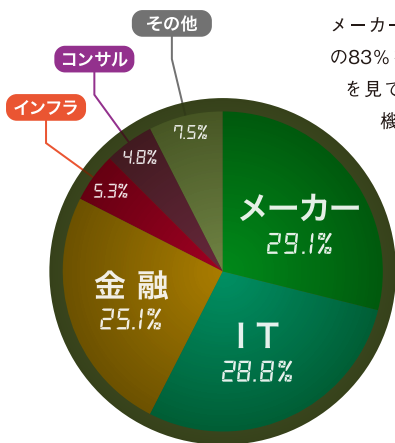


データで見る理系の就職活動

業界別 内定受諾企業



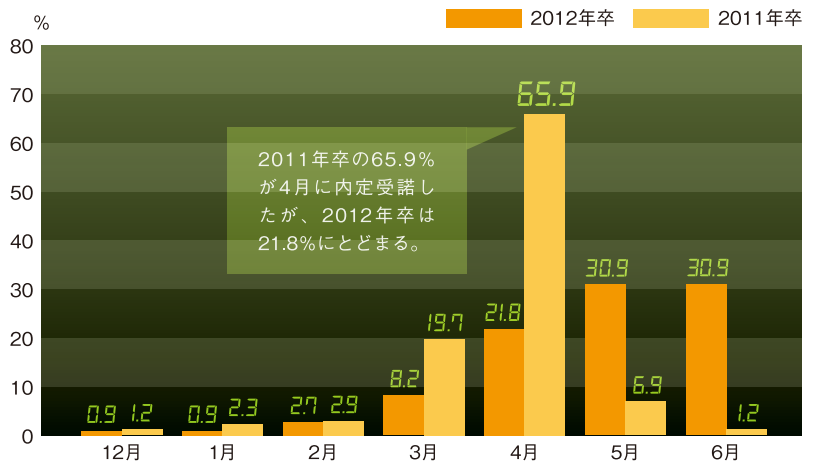
メーカー、IT、金融の3業界で全体の83%を占めています。さらに内訳を見てみるとメーカーでは総合電機、自動車、素材などの技術系職種、IT業界ではWEBサービスを提供している企業、金融系では数理能力を活かせるアクチュアリー職への内定が多く見られます。その他では商社やシンクタンクを選んだ学生もいました。

理系の先輩たちはどのように就職活動を進め、どんな業界を選んだのか…理系学生の場合、「周囲に就職活動をしている先輩がいなくて、ロールモデルがあまりない」という方も珍しくなく、周囲がどんな就職活動をしているのかわかる機会が少ないといえます。

特集「データで見る理系就職」では、2012年卒業予定で就職活動に取り組んだ理系の先輩たちのデータを集計してみました。理系ナビ会員の先輩たちがどんな就職活動をしたのか、データから読み解いてみてください！

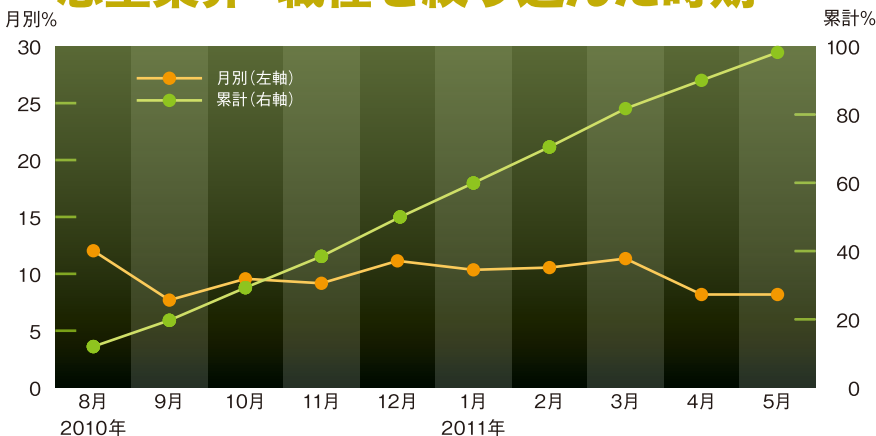
内定受諾時期

2012年卒は、震災の影響などで大手企業が選考時期を遅らせたこともあって、例年よりも内定受諾時期が後ろ倒しになっています。2013年卒についても経団連が提唱する倫理憲章の影響で採用スケジュールがさらに後ろ倒しになると見られています。過去のスケジュールは参考にならない場合が多いので、自身でしっかり情報収集することをお勧めします。



2011年卒の65.9%が4月に内定受諾したが、2012年卒は21.8%にとどまる。

志望業界・職種を絞り込んだ時期



早い段階から志望業界を固めていたり、内定承諾の直前まで業界を比較しながら就職活動を進めたりといったパターンが見られますが、先輩たちが志望業界を絞り込んだ時期について大きな偏りはあまり見られません。5月にはほとんどの先輩が志望先を絞り込んでいるようです。

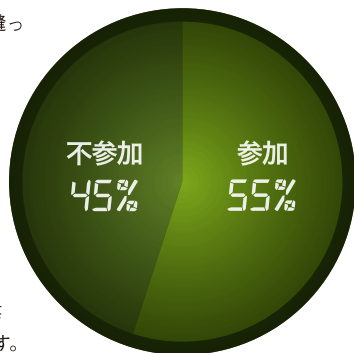
最終的な入社を決め手

最終的な入社を決め手の1位となったのは「人材の魅力」。こんな人たちと一緒に働きたい、と思えることが決め手となった方が多いようです。同じ業界でも企業によって働いている人のタイプはさまざまですから、自分はどんなタイプの人たちと働きたいのかを、早い段階からイメージすると就職活動がよりスムーズになるかもしれません。

1	人材の魅力	19.8%
2	自分のやりたいことが実現可能な企業	16.0%
3	雇用条件	12.3%
4	裁量権の大きさ	8.0%
5	社風	5.6%
6	働く姿が明確にイメージできる	4.9%
6	会社の規模	4.9%
7	志望度が高い方	3.7%
7	1番最初に内定をくれた企業	3.7%
8	自分の価値を高く評価してくれた企業	3.1%
9	会社の将来性	2.5%
10	業界内で特化した技術力	1.9%
11	仕事楽しそう	1.2%
11	業界/仕事の特徴が自分と合っているか	1.2%

インターンシップ参加率

研究で忙しい理系学生ですが、スケジュールの合間を縫って半数以上がインターンシップに参加しています。参加の目的で一番多かったのは「業務理解を深めるため」でした。ちなみに、サマーインターンシップ参加者のうち22%が参加した企業の内定を承諾しています。



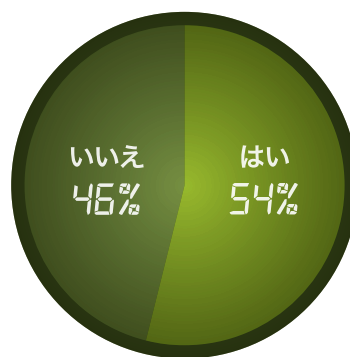
平均エントリー数



文系学生を含めた全体の平均エントリー社数は例年50社以上ということを見ると、理系学生はかなり厳選して応募しているといえます。理系については推薦中心で就職活動を進めている学生もいるため、平均エントリー数を押し下げていると見られます。

専攻、研究分野を活かせる仕事を希望したか

大学での専門性を活かせる仕事に就きたいと考えていた理系学生は54%。Noと答えた方は「専攻にとらわれず幅広い仕事を見てみたかった」「自分の専攻を仕事にするのは難しいと思ったから」といった意見が多く見られました。



※調査対象：理系ナビ2012会員
 調査期間：2011年5月～7月
 調査方法：メールによる入力シート返信
 回答数：242名